

提出日： 2024 年 4 月 3 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	山科満

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日 2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日 3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日 4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日 1.
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	研究計画に基づき、発達障害があるために本学で在学中に学部キャンパスソーシャルワーカーから修学支援を受けて卒業した人に、面接調査を行った。14 人から協力が得られ、他に、同様の修学支援を受けながら在学している学生にも面接調査行うこととし、8 人の学生から協力が得られた。協力者に対し、研究期間内に 1 回ないし 2 回の面接を行った。初回面接の平均所要時間は 1 時間 40 分であった。面接は録音・録画され、その逐語録に基づき分析が行われた。 この結果を、日本 LD 学会第 32 回大会、第 45 回全国大学メンタルヘルス学会総会などで発表し、「大学のメンタルヘルス誌」に査読付き論文として投稿した（現在審査中）。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	学生が、発達障害がありながらも就労するためには、障害者雇用であるか否かにかかわらず、学生時代に自己理解を深化・発展させることが重要であることが、当事者の言葉からも裏付けられた。自己理解の深化・発展に必要なのは、学生時代に「伴走型支援」を受けること、環境の中でトライアンドエラーを繰り返しながら自身の能力について手応えを得て自己肯定感を確かなものにすることが必要条件となると思われた。この点はこれまでの研究では十分に明らかにされていなかったところであり、本研究で多くの当事者の語りから裏付けられたことが新たな成果であるといえる。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	発達障害があり修学支援を必要とした学生が就労に至り定着していくためには、学内の支援資源だけでなく、障害のある学生を対象にした就職エージェントや、就職先からの支援が欠かせない。しかし現状は、それらの資源はそれぞれが独自の支援を行っており、連携に関する調査研究は行われていない。そこで、1 人の当事者（学生・卒業生）とその人を取り巻く複数領域の支援者を対象に面接調査による事例研究を行い、その事例研究を積み重ねることにより、発達障害のある学生の就労支援における課題解決に繋げる調査研究とする。この研究テーマで、2025年度の科研費申請を予定している。